

科目名称(Course Title)				担当教員 (Instructor)	
国際経営論				平野 真	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>現代においては、企業も人も、グローバル化と無関係に生きていくことはもはやできません。国際環境の変化の中で、どのように企業を運営していくか、また人や社会も、どのように考え行動していくか、絶えず考え続けていかねばならないのです。授業では、前半、国際的な取引や企業経営の現実的な問題をビデオなどを見ながら具体的に事例に沿って考えていき、同時に必要な知識をまとめていきます。後半では、グローバル化した産業の問題点を中心に、企業のみならず地域社会の人々がグローバル化とどのように向き合い考えていく必要があるのか、世界全体が持続可能な発展を続けるにはどうしたらいいのかなどを考えていきます。なお授業の進め方や評価手法については、多少の変更を行うことがあります。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>1)国際化に関して企業が考えなければならない主要課題について説明し、具体的な対策を挙げる事ができる。2)国による企業経営の在り方の違いを例をあげて説明でき、グローバル社会の中で企業経営や海外活動をどのように考えていけばいいか、自分の考えを述べられる。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	オリエンテーション (授業の概要、評価の説明、グローバル化とは?)				
第 2 回	第一部国際経営学の基礎(1)企業活動の国際化：イタリア、フェラガモ社の事例				
第 3 回	第一部国際経営学の基礎(2)多国籍企業：レナウンの中国企業による買収事例				
第 4 回	第一部国際経営学の基礎(3)グローバル化とローカル化：台湾の半導体企業の事例				
第 5 回	第一部国際経営学の基礎(4)異文化問題：インドネシアの金融事業の事例				
第 6 回	第一部国際経営学の基礎(5)海外生産と産業空洞化：タイの金型事業の事例				
第 7 回	第一部国際経営学の基礎(6)国際マーケティング：海外で活躍する日本の若者の事例				
第 8 回	第一部の復習とまとめ				
第 9 回	中間テストによる学習の検証				
第 10 回	第二部グローバル化の課題(1)グローバル社会の課題：「不都合な真実」の紹介				
第 11 回	第二部グローバル化の課題(2)持続可能な発展への戦略：デンマークでの取材ほか				
第 12 回	第二部グローバル化の課題(3)これからの世界と中国：中国での取材ほか				
第 13 回	研究発表会				
第 14 回	研究発表会				
第 15 回	総復習とまとめ				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>授業で特に重要なのは復習である。授業で学習した内容がよく理解できない場合や授業中に埋めべきレジュメの空欄が埋められなかった場合は、必ず次回に質問して理解を深めるようにする。6回分の授業が終わるごとに整理しなければならない事項のテストがあり、この準備をすることを通じ、知識を頭の中に整理する。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
小テスト(20%) 中間テスト(20%) 研究レポート(20%) 最終テスト(40%)	秀：適切に問題点を指摘し、特筆すべき鋭い分析や考察ができ、現実的な解決策を提示できる 優：授業で学習したことを良く理解でき指摘した問題点に対し適切な解決策を提示できる 良：授業で学習した内容を基本的には理解でき、指摘した問題点に対し解決策を提示できる 可：授業内容の理解、問題点の指摘と解決策の提示が、最低限の水準を満たしている 不可：授業の内容が理解できておらず、問題点や解決策の提示ができない、あるいは3分の1を超えて欠席した
テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 授業で配布するレジユメを中心に行う。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	「現代グローバル経営要論」山下達哉、高井透著、同友館。ほかに講義のレジユメの中で、参考文献を紹介する。
備考 (Other Information)	3分の1以上(6回以上)の欠席は、単位不可とする
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メール連絡 hirano-makoto@fukuchiyama.ac.jp